

2021年9月30日(木)

**1日目 A会場**

**シンポジウム I 『神経病理と神経心理』**

9:00~11:00

**座長：石原 健司** (旭神経内科リハビリテーション病院)

**長濱 康弘** (医療法人花咲会かわさき記念病院)

- 1 神経心理学者が知っておくべき神経病理の知識 .....p52  
高尾 昌樹 (国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部)
- 2 意味性認知症の神経心理と神経病理 .....p53  
川勝 忍 (福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座)
- 3 FTLDの神経病理学 .....p54  
新井 哲明 (筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学)
- 4 精神病性障害に認められる神経変性所見 .....p55  
横田 修 (きのこエスポアル病院精神科/岡山大学学術研究院医歯薬学域精神神経病態学)

**教育講演 I**

11:00~12:00

**座長：村井 俊哉** (京都大学医学部附属病院精神科神経科)

- 社会的文脈におけるヒト記憶の神経基盤 .....p38  
月浦 崇 (京都大学大学院人間・環境学研究所)

**ランチョンセミナー I**

12:10~13:00

**座長：池田 学** (大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室)

**アルツハイマー病の早期診断**

吉澤 浩志 (東京女子医科大学脳神経内科)

**認知症理解のための神経心理アセスメントの基礎**

小森憲治郎 (十全ユリノキ病院)

共催：エーザイ株式会社

**特別講演 I**

13:40~14:40

**座長：三村 将** (慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室)

- 脳回路の自発性と恒常性について .....p34

池谷 裕二 (東京大学大学院薬学系研究科薬品作用学教室)

座長：池田 学（大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室）

さまざまな記憶のかたち .....p32  
三村 将（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室）

シンポジウムⅢ 『さまざまな注意のかたち』

15:50~17:50

座長：前島伸一郎（金城大学）

太田 久晶（札幌医科大学保健医療学部作業療法学科）

1 AD とワーキングメモリ .....p64  
吉村 貴子（京都先端科学大学健康医療学部）

2 発達障害における注意 .....p65  
青木 悠太（昭和大学発達障害医療研究所）

3 外傷性脳損傷の注意障害—リハビリテーションの観点から— .....p66  
青木 重陽（神奈川県リハビリテーション病院リハビリテーション科）

4 注意障害と遂行機能障害 .....p67  
船山 道隆（足利赤十字病院神経精神科）

2021年9月30日(木)

## 1日目 B会場

## シンポジウムⅡ 『発達障害へのリハビリテーション』

9:00~11:00

座長：丹治 和世 (小石川東京病院精神科)  
 緑川 晶 (中央大学文学部)

- 1 自閉スペクトラム症児へのリハビリテーション ……………p58  
 岩永竜一郎 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)
- 2 Dyslexia (読字障害) への治療的介入……………p59  
 Fumiko Hoelt (University of Connecticut (UConn), Departments of Psychological Sciences, Mathematics, Neuroscience, Psychiatry, Pediatrics, Education, USA/University of California San Francisco (UCSF), Department of Psychiatry and Behavioral Sciences, USA/Keio University School of Medicine, Department of Psychiatry, Japan)
- 3 発達障害者へのヒューマノイドロボットを用いた支援の潜在性 ……………p60  
 熊崎 博一 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)
- 4 注意欠如多動症へのニューロフィードバックの可能性 ……………p61  
 山縣 文 (慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室)

## ランチョンセミナーⅡ

12:10~13:00

座長：渡邊衡一郎 (杏林大学医学部精神神経科学教室)

## マインドフルネス認知療法の立場から見るうつ病の再発予防

佐渡 充洋 (慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室)

共催：武田薬品工業株式会社/ルンドベック・ジャパン株式会社

## 教育講演Ⅱ

15:50~16:50

座長：平山 和美 (山形県立保健医療大学)

## 脳の中の巨大な接合領域：頭頂葉 ……………p40

永井知代子 (帝京平成大学健康メディカル学部言語聴覚学科)

## 教育講演Ⅲ

16:50~17:50

座長：中川 賀嗣 (北海道医療大学リハビリテーション科学部)

## Visual hallucinations in neurological, psychiatric and ophthalmological disease……………p42

Dominic ffytche (King's College London, Institute of Psychiatry, Psychology and Neuroscience, UK)

## 一般口頭発表 1-1 『言語 1』

9:00~9:50

座長：阿部 晶子（国際医療福祉大学保健医療学部言語聴覚学科）

- 1-1-01 様々な語性錯語を呈した多発性硬化症（MS）の一例—無関連性錯語と範疇化機能（categorization）の検討……………p88  
○目黒 祐子<sup>1)</sup>、藤盛 寿一<sup>2)</sup>、中島 一郎<sup>2)</sup>  
東北医科薬科大学病院<sup>1)</sup>、東北医科薬科大学老年神経内科学<sup>2)</sup>
- 1-1-02 常同的語性錯語の障害メカニズム……………p88  
○中川 良尚<sup>1)</sup>、笹嶋 侑子<sup>1)</sup>、近藤 郁江<sup>1)</sup>、岩佐香菜美<sup>1)</sup>、原 未来<sup>1)</sup>、木下 結理<sup>1)</sup>、佐野 洋子<sup>1)</sup>、船山 道隆<sup>2)</sup>、山谷 洋子<sup>3)</sup>、加藤 正弘<sup>3)</sup>  
江戸川病院リハビリテーション科<sup>1)</sup>、足利赤十字病院精神神経科<sup>2)</sup>、江戸川病院神経内科<sup>3)</sup>
- 1-1-03 左側頭葉限局病巣による語義失語—聴覚的理解課題と呼称課題からの分析—……………p89  
○笹嶋 侑子<sup>1)</sup>、中川 良尚<sup>1)</sup>、近藤 郁江<sup>1)</sup>、岩佐香菜美<sup>1)</sup>、原 未来<sup>1)</sup>、木下 結理<sup>1)</sup>、佐野 洋子<sup>1)</sup>、船山 道隆<sup>2)</sup>、山谷 洋子<sup>3)</sup>、加藤 正弘<sup>3)</sup>  
江戸川病院リハビリテーション科<sup>1)</sup>、足利赤十字病院神経精神科<sup>2)</sup>、江戸川病院神経内科<sup>3)</sup>
- 1-1-04 基底核損傷に伴い重度の皮質下性失語を生じた一症例の考察……………p89  
○水沢沙也加  
埼玉石心会病院リハビリテーション部
- 1-1-05 副詞「いつも」が前に出るとき……………p90  
○古本 英晴  
国立病院機構千葉医療センター脳神経内科

## 一般口頭発表 1-2 『言語 2』

9:50~10:40

座長：櫻井 靖久（三井記念病院神経内科）

- 1-2-01 失語症患者の意味機能：意味連合検査 SAT を用いた検討……………p90  
○佐藤ひとみ<sup>1)</sup>、浦野 雅世<sup>2)</sup>  
浴風会病院リハビリテーション科<sup>1)</sup>、横浜市立脳卒中・神経脊椎センター<sup>2)</sup>
- 1-2-02 深層学習を用いた言語流暢性課題の音声認識システムの提案……………p91  
○北原 正道<sup>1)</sup>、山田 千晴<sup>2)</sup>、大門正太郎<sup>3)</sup>、板口 典弘<sup>4)</sup>  
静岡大学総合科学技術研究科<sup>1)</sup>、早稲田大学人間総合研究センター<sup>2)</sup>、クラーク病院リハビリテーション部<sup>3)</sup>、慶應義塾大学文学部<sup>4)</sup>
- 1-2-03 桁の概念、数に関する意味記憶に障害をきたした posterior cortical atrophy の一例……………p91  
○埜本 大喜<sup>1)</sup>、鐘本 英輝<sup>1)</sup>、鈴木 麻希<sup>2)</sup>、前西真梨子<sup>1,3)</sup>、佐竹 祐人<sup>1)</sup>、小泉 冬木<sup>1)</sup>、和田 民樹<sup>1)</sup>、吉山 顕次<sup>1)</sup>、岩瀬 真生<sup>1)</sup>、橋本 衛<sup>1,4)</sup>、池田 学<sup>1)</sup>  
大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室<sup>1)</sup>、大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学・神経精神医学<sup>2)</sup>、市立豊中病院精神科<sup>3)</sup>、近畿大学医学部精神神経科学教室<sup>4)</sup>

- 1-2-04 「字を書きたい」—重度の書字障害を呈した CBS 患者に対する書字代替手段の提案— ……p92  
 ○細川 大瑛<sup>1,2)</sup>、大村 悠<sup>1)</sup>、船橋 史織<sup>1)</sup>、戸恒 智子<sup>3)</sup>、馬場 徹<sup>3)</sup>、平山 和美<sup>4)</sup>、  
 武田 篤<sup>3)</sup>  
 国立病院機構仙台西多賀病院リハビリテーション科<sup>1)</sup>、  
 東北大学医学系研究科高次機能障害学分野<sup>2)</sup>、国立病院機構仙台西多賀病院脳神経内科<sup>3)</sup>、  
 山形県立保健医療大学作業療法学科<sup>4)</sup>

- 1-2-05 左頭頂葉切除後に非典型的な言語野分布を呈した脳腫瘍例：超選択的 Wada test による検討  
 ……p92  
 ○柿沼 一雄<sup>1)</sup>、大沢伸一郎<sup>2)</sup>、下田 由輝<sup>2)</sup>、金森 政之<sup>2)</sup>、浮城 一司<sup>3)</sup>、太田 祥子<sup>1)</sup>、  
 親富祖まりえ<sup>1)</sup>、川村 藍<sup>1)</sup>、富永 悌二<sup>2)</sup>、中里 信和<sup>3)</sup>、鈴木 匡子<sup>1)</sup>  
 東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学分野<sup>1)</sup>、  
 東北大学大学院医学系研究科神経外科学分野<sup>2)</sup>、  
 東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野<sup>3)</sup>

一般口頭発表 1-3 『行為』

10:40~11:10

座長：小嶋 知幸（市川高次脳機能障害相談室）

- 1-3-01 右手拙劣症が遷延した左頭頂葉梗塞の一例……………p93  
 ○近藤 正樹<sup>1,2)</sup>、前園 恵子<sup>1)</sup>、水野 敏樹<sup>1)</sup>  
 京都府立医科大学大学院脳神経内科学<sup>1)</sup>、京都府リハビリテーション支援センター<sup>2)</sup>
- 1-3-02 術後に右手に拮抗失行を呈した左頭頂葉神経腫瘍の一例……………p93  
 ○藤井 正純<sup>1)</sup>、二村美也子<sup>2)</sup>、蛭田 亮<sup>1)</sup>、菊田 春彦<sup>1)</sup>、バキットムダシル<sup>1)</sup>、  
 小林 俊輔<sup>3)</sup>  
 福島県立医科大学医学部脳神経外科学講座<sup>1)</sup>、  
 福島県立医科大学附属病院リハビリテーションセンター<sup>2)</sup>、帝京大学医学部脳神経内科学<sup>3)</sup>
- 1-3-03 両手の進行性失行例における道具の実使用の検討……………p94  
 ○板東 充秋<sup>1)</sup>、角南 陽子<sup>1)</sup>、船井明日香<sup>1)</sup>、長岡 詩子<sup>1)</sup>、平塚 純子<sup>2)</sup>、高橋 一司<sup>1)</sup>  
 東京都立神経病院脳神経内科<sup>1)</sup>、東京都立神経病院精神神経科<sup>2)</sup>

一般口頭発表 1-4 『モダリティ特性障害と無視』

11:10~11:50

座長：下村 辰雄（秋田県立リハビリテーション・精神医療センター）

- 1-4-01 高次脳機能障害を来した非痙攣性てんかん重積の2例……………p94  
 ○稲富雄一郎<sup>1)</sup>、中島 誠<sup>2)</sup>、米原 敏郎<sup>1)</sup>  
 済生会熊本病院脳神経内科<sup>1)</sup>、熊本大学大学院脳神経内科<sup>2)</sup>
- 1-4-02 発達性視覚失認の発症機序について……………p95  
 ○丹治 和世  
 小石川東京病院精神科

- 1-4-03 対象中心性無視を呈した症例に対するなぞりの効果……………p95  
 ○菅原 光晴<sup>1)</sup>、前田 眞治<sup>2)</sup>、山本 潤<sup>3)</sup>、近藤 智<sup>4)</sup>、高田 善栄<sup>5)</sup>  
 清伸会ふじの温泉病院<sup>1)</sup>、国際医療福祉大学大学院<sup>2)</sup>、  
 国際医療福祉大学小田原保健医療学部作業療法学科<sup>3)</sup>、  
 厚木市立病院リハビリテーション技術科<sup>4)</sup>、  
 一般財団法人総合南東北病院リハビリテーション科<sup>5)</sup>
- 1-4-04 左半側空間無視 1 例における複合語の読み誤りの特徴 ……………p96  
 ○阿部 晶子<sup>1)</sup>、川崎 美里<sup>2)</sup>、木村 和紗<sup>2)</sup>、上地 桃子<sup>1)</sup>、小森 規代<sup>1)</sup>、地主 千尋<sup>1)</sup>、  
 橋本 律夫<sup>3)</sup>  
 国際医療福祉大学保健医療学部言語聴覚学科<sup>1)</sup>、  
 国際医療福祉大学病院リハビリテーション室<sup>2)</sup>、国際医療福祉大学病院脳神経内科<sup>3)</sup>

## 一般口頭発表 1-5 『誤認と精神症状』

15:50~16:30

座長：櫻林 哲雄（高知大学医学部神経精神科学教室）

- 1-5-01 右後頭葉の梗塞後にシャルルボネ症候群を呈した症例……………p96  
 ○江原 真人<sup>1)</sup>、高杉 潤<sup>2)</sup>、坂本 昌紀<sup>1)</sup>、秋山 武和<sup>3)</sup>  
 秋山脳神経外科病院<sup>1)</sup>、東都大学幕張ヒューマンケア学部理学療法学科<sup>2)</sup>、  
 秋山脳神経外科病院脳神経外科<sup>3)</sup>
- 1-5-02 誘発せずに自然な状況下で人を模倣する行動と強制凝視を認めた両側前頭葉損傷の 1 例 ……p97  
 ○黒瀬 心<sup>1,2)</sup>、船山 道隆<sup>1)</sup>、中島明日佳<sup>3)</sup>、三村 將<sup>2)</sup>  
 足利赤十字病院神経精神科<sup>1)</sup>、慶應義塾大学医学部精神・神経科<sup>2)</sup>、  
 足利赤十字病院リハビリテーション科<sup>3)</sup>
- 1-5-03 妄想性誤認症候群の 2 例に対するリハビリテーション介入の効果と限界 ……………p97  
 ○大森 智裕<sup>1)</sup>、角田 亘<sup>2)</sup>、穴水 幸子<sup>3,4)</sup>、船山 道隆<sup>5)</sup>、三村 悠<sup>5,6)</sup>  
 国際医療福祉大学成田病院リハビリテーション技術部<sup>1)</sup>、  
 国際医療福祉大学成田病院リハビリテーション科<sup>2)</sup>、栃木県精神保健福祉センター<sup>3)</sup>、  
 東京都立大学人文社会学部<sup>4)</sup>、足利赤十字病院神経精神科<sup>5)</sup>、  
 慶應義塾大学医学部精神神経科<sup>6)</sup>
- 1-5-04 高次脳機能障害における抑うつと認知機能の考察……………p98  
 ○山内 美穂<sup>1,2)</sup>、中川原譲二<sup>1)</sup>  
 大阪なんばクリニック<sup>1)</sup>、国立循環器病研究センター<sup>2)</sup>

## 一般口頭発表 1-6 『その他』

16:30~17:10

座長：稲富雄一郎（済生会熊本病院脳神経内科）

- 1-6-01 高次脳機能障害患者に対する怒りの制御に関する集団認知行動療法プログラムの開発の試み  
 ……………p98  
 ○田島 美幸、腰 みさき、藤川 真由、小西 海香、清水恒三朗、斎藤 文恵、  
 佐渡 充洋、藤澤 大介、菊地 俊暁、三村 將  
 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

- 1-6-02 高次脳機能障害患者に対するアンガーマネジメントトレーニングマニュアル日本語版作成の  
 試み……………p99  
 ○清水恒三朗<sup>1,2)</sup>、藤川 真由<sup>1)</sup>、田島 美幸<sup>1)</sup>、小林 由季<sup>1)</sup>、腰 みさき<sup>1)</sup>、小西 海香<sup>1)</sup>、  
 斎藤 文恵<sup>1)</sup>、菊地 俊暁<sup>1)</sup>、三村 将<sup>1)</sup>  
 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室<sup>1)</sup>、東京都立大学人文科学研究科心理学教室<sup>2)</sup>
- 1-6-03 85歳以上超高齢者における抑うつ症状とそれに関連する因子の検討：川崎ウェルビーイング  
 プロジェクト……………p99  
 ○色本 涼<sup>1)</sup>、阿部由紀子<sup>1)</sup>、高山 緑<sup>2)</sup>、新井 康通<sup>1)</sup>  
 慶應義塾大学医学部百寿総合研究センター<sup>1)</sup>、慶應義塾大学理工学部<sup>2)</sup>
- 1-6-04 健常高齢者における脳卒中ドライバーのスクリーニング評価日本版（J-SDSA）の課題成績と  
 事故・違反・ヒヤリハット経験の関連性……………p100  
 ○勝浦 駿平<sup>1,2)</sup>、齊藤 秀和<sup>2,3)</sup>、太田 久晶<sup>2,3)</sup>  
 札幌医科大学附属病院リハビリテーション部<sup>1)</sup>、札幌医科大学大学院保健医療学研究科<sup>2)</sup>、  
 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科<sup>3)</sup>